

父の命を救った税への感謝

日本大学第一中学校3年 立花 綺杏

私は、「税金」について深く考えたことがなくて、それは、私には関わりのないものだと思っていました。自分の身近にある税は何だろう？と、インターネットを使い調べた時、救急車のことが頭に浮かびました。

私の父は、私が中学の受験勉強真っ只中、三年前の八月六日に職場で倒れ、救急車で運ばれました。生死をさまよい、大手術をして長い入院生活を送りました。その後、無事に退院できたのですが、退院して二日後に自宅でまた倒れ、母が慌てて一一九番に電話をかけて、その時も救急車で運ばれました。最初に倒れた時も自宅で倒れた時も、一刻を争う事態だったので、迅速で丁寧な対応をしてくださった救急隊員の方達には、深く感謝しています。

二度もお世話になった救急車が、税金によって賄われていることを初めて知りました。日本は、どんな状況であっても無料で利用することができるそうです。「日本で生活をしていると、無料で救急車を利用できるのが普通だと思っている人はたくさんいるんじゃないかな。」と母が言っていました。では、日本以外の国とどのような違いがあるのだろうか。少し興味を持ちました。日本は、一回の出動で約四万五千円の費用がかかるそうです。人件費やガソリン代、メンテナンス代、救急車内に設置されている医療機器や物品代など。これら全てが税金で賄われています。海外は有料の国が多くあることを知り、とても驚きました。アメリカでは、ニューヨーク消防局によって救急搬送されると十四～十六万円の費用を請求され、更に、距離が一キロメートル増えるごとに千円ずつプラス、酸素投与の場合は七千円プラスになるそうです。シンガポールでは、病状が重症か軽症かで料金が変わり、ドバイでは、搬送先の病院が公立なら無料、私立なら有料になるそうです。日本のように無料で利用できる国は、イタリアやイギリスなど少数であり、世界的に見ても珍しいと言われていることが分かりました。

父の話に戻りますが、手術や入院、通院で高額な医療費を請求され、中学受験を諦めるべきか悩んだ時期がありました。その時は、家族皆がお金のことを一番不安に思ったからです。日本には「医療費控除」という所得税を軽減する制度があり、連動して住民税も低くなるそうです。医療費が全て戻ってきたわけではありませんが、このような制度があるおかげで、支払うべき税金の軽減をしてもらえた。有難かった。と両親は言っていました。

日本は、税金の恩恵を受けていることがたくさんあると思います。そのことを知ることができて、私は初めて税の大切さを実感しました。父は、私の知らないたくさんの人達が納めた税金によって、支えられ助けられました。その感謝の気持ちを忘れず、将来、社会人になった時は、しっかり税金を納めていきたいです。